資料３

【報告】令和５年度第３回障がい児・者連携に関する意見交換会のまとめについて

【日時】
令和６年３月２５日（月）午後１時から午後３時まで

【参加機関】
和泉支援学校（教頭）、相談支援部会（代表）、就労支援部会（代表）、
障がい者基幹相談支援センター、子育て支援室、障がい福祉課

【意見交換会の目的】
障がい児・者連携に関する各機関の役割、現状、課題などを共有し、今後より良い連携体制の構築に向けて具体的な取組みを進めていくこと

【第３回意見交換会　議題】
『進路選択の進め方について』

【協議内容詳細】
●進路選択について
〇就労支援部会
早い方だと、高校１年生から事業所へ相談に来る。相談に来るきっかけとしては、「学校からの促しがあったため来た」というよりも、保護者自らが希望の事業所をネットで見つけ、見学に来られることが多い。また、進路先は本人ではなく、家族の希望で大きく変わる。そして、保護者が事業所の特色を把握していないことが多くある。
支援学校が開催している「福祉事業所合同説明会」の感想としては、保護者の熱意に大きな差があるということ。熱意がある方は、希望事業所を選択することが早いように感じる。

●事業所とのミスマッチについて
〇就労支援部会
学校が実施する事業所実習は２か所までと決まっており、その実習時の情報については、実習シートで学校と共有している。
しかし、学校経由ではなく、自ら事業所を探して体験する場合の情報については、学校と共有ができていない。共有をすることができれば、進路選択の大きなポイントとなり、ミスマッチを防ぐことができるのではないかと考える。

〇子育て支援室
　保護者の中には、学校から「事業所見学へ行くように」と言われるが分からない方もおり、そのために相談支援専門員をつけたいと相談がある。

●進路先の選び方について
〇就労支援部会
　今後の将来を見据えてサービス種別（就労移行支援や就労継続支援Ａ・Ｂ型）を選択するのではなく、本人がやりたい作業内容で事業所を選択しているように感じる。
　その他、事業所選択として多いのは、①送迎が付いているか、②昼食の提供があるか、③終わる時間は何時なのか、といったことを重視する人が多い。

〇相談支援部会
　相談支援専門員の役割としては、本人が自身で進路選択できるようにさまざまな情報を本人へ提供・提案することである。

〇子育て支援室
　相談支援専門員が本人へ情報提供ができるよう、障がい福祉サービス事業所の特色などが載っている「ココスル」をどのように活用していくのかを考える必要がある。利用者だけではなく、支援者側も事業所の提案に活用できるようなものになっているのかが重要である。

【第３回意見交換会から見えてきた課題】
　実際に進路決定が上手く進んだケース、進まなかったケースの事例をもとにどのような違いがあるのかを整理する。

【今後検討すること】
　①進路決定までの流れを整理する。
　②進路決定が上手く進んだケース、進まなかったケースの事例を踏まえて、進路選択の重要なポイントや全体的な課題を整理し、解決方法を見出す。

【次回開催日】
　令和６年７月３１日（水）午後２時から午後４時まで